

# リエぞん



〈編集・発行〉  
独立行政法人 国立病院機構  
奈良医療センター  
<https://nara.hosp.go.jp/>

Liaison

vol.57

独立行政法人国立病院機構 奈良医療センター

令和6年5月

医療関係者の皆様へ 「リエぞん」(Liaison)とは、フランス語で「連携・つなぐ」といった意味をもちます。  
奈良医療センターは、地域の医療機関との連携を深め地域医療の推進に努めていきたいという思いで名付けました。

## 病院理念

私たちは、質の高い医療を提供し、地域の皆様の健康を支援することにより、信頼される病院を目指します  
患者第一、安心安全な先進医療を提供します

## 令和6年度 病院目標

呼吸器疾患と神経疾患を中心とした  
「面倒見のいい病院」の機能を高める

この瞬間を  
未来にはばたけ！



## Contents

- |   |   |                           |   |
|---|---|---------------------------|---|
| ● 安心できる医療をめざして                                | 2 | ● 春の健康まつり・パープルデーライトアップを実施 | 5 |
| ● 部門紹介ー薬剤部                                    | 3 | ● 能登半島地震への災害派遣を通して        | 6 |
| ● 奈良マネジメント学会を開催して                             | 4 | ● 新任・着任のご挨拶               | 6 |
| ● 第11回全国てんかんセンター協議会総会 (JEPICA)<br>徳島大会2024に参加 | 5 | ● 連携施設のご紹介コーナー VOL.19     | 8 |

# 安心できる医療をめざして

国立病院機構奈良医療センター 院長 永田 清



2024年4月より、院長を拝命いたしました。これまで奈良医療センターが担ってきた診療路線を引き継ぎ、さらに内容を発展、充実させて行きたいと思います。すなわち結核、神経難病、重心などセーフティネット系医療を主軸とし、呼吸器内科診療、てんかん、機能脳神経外科、発達障害(小児神経科)など他病院では重点的に行っていないが、社会にとって重要な分野の治療をより専門的に行えるように、その分野のスペシャリストを集め、さまざまな要望にお応えいたします。特に、てんかん診療につきましては、2010年にてんかんセンター開設、2021年奈良県てんかん診療拠点病院に指定され、奈良県におけるてんかん診療の中核としての役割が担えるように整備してまいりました。1924年ハンス・ベルガーによるヒト脳波の発見からちょうど100年目に当たる今年、長時間ビデオ脳波モニタリング検査を長年おこなってきた実績をもとに、当センターでもてんかん外科を本格的に開始することになりました。治療の選択肢が増えることになり、てんかん診療にさらに寄与できると思っています。

これまでにない診療が求められることは、近年しばしば見受けられます。2020年に始まり、ようやく収束したかに見えるCovid-19感染症もそのうちの1つです。Covid-19感染症で当院はいち早く総員をあげて取り組み、地域で一定の役割を果たせましたが、いつ何時これが再燃したり、別の新興感染症が上陸するかもしれません。このような事態に対して当院もCovid-19感染症での経験を踏まえて対応するつもりです。さらに2024年は、能登半島地震が起こり、災害時の医療提供についても、重要視されています。当院では障害のある方(特に重症心身障害者)を大規模災害時に受け入れる準備をしています。奈良市内2つの重症心身障害者施設とのあいだで「災害時における療養介護事業所のある医療機関への入院に関する協定」を締結し、昨年は奈良市総合防災訓練へも参加いたしました。災害時においても当院の役割を果たせるようにいたします。また、奈良県の地域医療構想の中でも、当院に何ができるかについて検討し、実行していきます。奈良県立医科大学付属病院や奈良県総合医療センターなどの3次救急は「断らない病院」として最も重要です。しかし、両病院から下り搬送として患者を受け取る2番目の病院が、この構想の成功の鍵を握っていると考えています。当センターは奈良県立医科大学とは患者受け入れ協定を結び、奈良県総合医療センターとは同院の救急ネットワークに参加して転院を受け入れ、2番目の病院として継続治療や急性期リハビリを行っています。さらに在宅や施設、クリニックからも軽症の救急を受け入れて、地域の救急医療に貢献いたします。

今年は桜の開花が遅く、やっと4月に入って一斉に咲き始め、あっという間に満開となりました。多くの花を見ながら新年度をスタートさせることができ、勇気付けられるとともに身が引き締まる思いです。これまで当院が行ってきた診療をさらに充実させ、地域の要望に耳を傾けながら安心できる医療を提供できるように、力を合わせて鋭意努力してまいります。



# 部門紹介

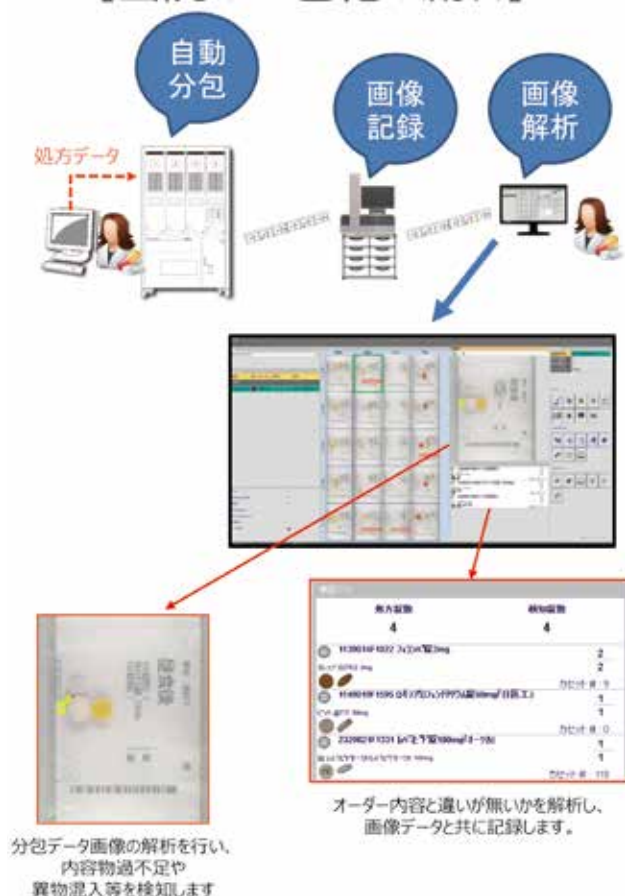
薬剤部長 別府 博仁

## 病院薬剤師のあり方について

私の思いとしては、『薬のある所に薬剤師あり』という理想があります。チーム医療ということ言われて久しくなりますが、薬剤師の関与により薬物療法の質は著しく向上すると考えております。当院は、2021年4月にてんかん診療拠点機関に指定され、私が赴任した2022年度より、薬剤師による『てんかん薬剤師外来』を試行・開設しました。当院は、てんかん患者さんでは、複数の抗てんかん薬を服用されていることも少なくなく、飲み合わせも複雑ですので、処方医のイメージ通りに服薬できていない方も少なくありません。そのような患者さんからは薬剤師が聞き取りを行い、薬物療法の質向上に貢献しております。2024年問題で医師の働き方改革が必要となっており、医師の診療業務からのタスクシフトの一環としても期待されております。マンパワー不足中での継続は大変ですが、少ない人員ですのでできることは限られていますが、可能な限り対応させていただいております。

また、少ないマンパワーの中で薬剤師に求められる働き方として、対物（お薬）業務から対人（患者さん・医療スタッフ）業務へのシフトが求められています。従来の薬剤師は調剤業務が中心とされていましたが、近年薬剤師に求められる役割としては患者さんのアドヒアランス（服薬順守）向上に向けた取り組みや医師への処方提案などとされています。一方で、対物業務も欠かすことのできない業務であるため、調剤業務の一部は機械化を進めております。2023年9月には、自動散薬分包ロボットを導入しました。当院に入院されている患者さんでは、多くの方が錠剤やカプセル剤での処方が難しく散薬で処方される方が非常に多く、散薬の計量が業務割合として大きなウェイトを占めております。このため、自動散薬ロボットの導入により散薬の計量作業はロボットによって実施され、薬剤師はロボットによって作成された散薬の精度を確認して払い出す業務を行うことで調剤業務が完結するため、大きな業務負担軽減につながっております。また、複数の錠剤を服用されている患者さんでは飲み忘れ防止のため一包化されている方も少なくありませんが、分包されたものを確認するのは業務負担をしては大きなものになります。また、分包されたものが正しいか確認する事は薬剤師の業務としても非常に重要なものになります。一包化の作成については、現在も専用の機械が導入されていますが今年度は新たに一包化の監査システムを導入いたします。機械によって

### 【当院の一包化の流れ】



一包化された薬剤を監査システムにて確認することで中の錠剤が正しいものか、異物が混入されていないか等確認でき、高精度では別でき、画像データで保管することが可能になります。このため、薬剤師の業務軽減のみでなく、安全の担保にも大きく寄与してもらえらるものと期待しております。

昨今の病院薬剤師不足の中、薬剤部ではできることを一つでも増やして薬物療法の向上に貢献できるよう取組を行っていききたいと思います。

お薬の服用に少しでも不安のある方はぜひご相談いただければと思います。

また、病院薬剤師を志望される方があられた際には是非ともお声かけいただければ幸いです。

## 奈良マネジメント学会を開催して

河嵯 美子

この度 2024年2月17日（土）に奈良コンベンションセンターにて、日本マネジメント学会 第18回奈良支部学術集会を開催いたしました。当日は500名を超える多数の方々にご参加いただき、無事盛会のうちに終了することができました。本会では「医療と福祉の融合～あんしん・あんぜんな療養を目指して～」をテーマとして、奈良県の医療関係者が一同に会し、地域の医療・福祉について議論することができました。諸先生方による特別講演をはじめ、医療関係者、行政関係者、患者代表の方を交えた「奈良医療サミット2024」を開催し、奈良の医療福祉について討論会を開催いたしました。また一般演題発表では、奈良県内の医療機関から多くの報告を頂き、活発な意見交換が行われました。

ご参加いただきました講師の方々、参加者の皆様、またご協力いただきましたすべての皆様に深く感謝申し上げます。





# 第11回全国てんかんセンター協議会総会 (JEPICA) 徳島大会2024に参加しました♪

てんかん診療支援コーディネーター 田中 ありさ看護師長

3月2、3日に徳島県のあわぎんホールで行われたJEPICAに参加いたしました。学会では、薬剤師の三嶋薬剤師が「てんかん診療における薬剤師外来の稼働への取り組み第2報」、田中が「奈良医療センターの研修実績報告」をポスター発表いたしました。また、矢崎小児神経医師が「てんかんコーディネーターの役割と課題」のブースに置いてコメンテーターとして参加されました。パープルマンがいたり各施設のてんかんセンターでの取り組みがポスターで発表されたりと会場はとてもにぎわっていました。シンポジウムも多くありましたが、特にYES-Japan企画の「若手による多職種間教育・多職種連携の取り組み」では、若い他職種の人たちが、てんかん医療について真摯に向き合っていることが発表の中で感じ、当院の若手も是非参加してほしいという気持ちになりました。また、ポスター発表では多くの施設の方と交流することが出来ました。同じような悩みを持っていることもわかり、今後連携を取っていき、お互いにフォローしあえる関係の構築に努めたいと思いました。



春の健康まつり・  
パープルデーの  
ライトアップを  
実施しました♪



## 能登半島地震への災害派遣を通して

災害支援ナース 1A病棟 笹田 泉樹

令和6年1月18日から21日まで、災害支援ナースとして石川県輪島市の避難所となった小学校で活動しました。断水中の体育館には約100の方が雑魚寝されており、インフルエンザやコロナウイルスに感染し、咳等の症状のある方が多くおられました。感染を広げないようにパーティションの設置を提案しましたが、避難者には親戚や知り合いの方が多く、お互いの顔が見える方が安心するということで使用できませんでした。そのような中で感染症対策として症状のある方や陽性者の方々と他の避難者が接することのないよう、一時的な自宅への避難、簡易な保護スペース（ゾーニング）の確保を行いました。また車中泊をされている方も多くおられたため、日中・夜間と巡回し、健康状態の確認を行いました。

今回、災害支援ナースとしての活動を通し、避難所は避難者主体の場だと実感しました。それぞれの背景と事情から生活環境を選択されておられます、そのことを尊重しながらどのような場でも健康を悪化させないよう、災害時の看護力をつけていく必要性を感じました。現在も不自由な生活を送られている方、被災者でありながら支援活動をされている方の、1日も早い生活の再建を願っています。

公益社団法人 奈良看護協会 ホームページにて「災害支援ナースの振り返り【語り】」がアップされております（限定公開）。

<https://youtu.be/NHfMZXFVCdE>

## 新任・着任のご紹介



診療部長 田村 健太郎

4月1日付けで脳神経外科およびてんかんセンターに奈良医大脳神経外科から参りました。20年近くてんかん外科治療に専念しており、幸い多くの経験を積ませていただきました。それをもとに、これまでの当院当科の特徴である定位機能神経外科治療に加え、てんかん外科治療によっても多くの患者さんに貢献できるてんかんセンター・機能脳神経外科を目指したいと思います。どうかよろしくお願いいたします。

診療部長 澤井 康子

4月1日付けで診療部長に着任いたしました小児神経科の澤井です。当院では、小児の脳・神経疾患の診断治療、重症心身障害医療に携わっています。病気の性質上、長年にわたって、息を切らさず患者様と歩み続けることが求められる診療科だと思っています。病気があっても、しあわせにすごせるように、支えをいかにしてゆくか、それを医療面・社会面から考えてゆくのが診療部長の役割なのかなと感じています。これからいろいろな分野を勉強して、より貢献できるようにしたいと思います。よろしくお願いいたします。





## 診療部長 下川原 立雄

2024年1月より診療部長を拝命いたしました脳神経外科の下川原立雄と申します。医療の集約化が推進され、地域の診療体制が変わっていく中で、当院の特色をいかしてよりよい医療を提供し、信頼される「面倒見のいい病院」として地域の医療に貢献できるようにがんばっていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

## 呼吸器科医長 板東 千昌

2024年1月より呼吸器科医長に就任しました板東千昌と申します。

当院は小規模な病院ですが、その分多職種スタッフと連携が取りやすく、チーム医療を頑張っていることは強みであると感じています。

当院には様々な呼吸不全の患者さんがいますが、チーム医療で対応しています。

呼吸ケア・リハビリについてはまだ周知されていないのが現状ですが、奈良県においては当院が慢性呼吸管理の拠点病院となる働きをして行きたいと思っています。

呼吸器疾患患者さん、慢性呼吸不全患者さん、呼吸リハビリが必要な患者さん等、ご紹介できれば幸いです。

どうぞ宜しくお願い申し上げます。

## 事務部長 村上 浩之



4月1日付で事務部長を拝命しました。村上浩之と申します。

3月まで、地域医療機能推進機構（JCHO）に3年間出向しており、この度、国立病院機構への復帰と同時に奈良医療センターへの勤務を命ぜられました。当院での勤務は12年ぶり2回目となりますが、前回勤務時には、さくら病棟の建て替えに奔走していたことを思い出します。

奈良医療センターが地域医療に貢献できるよう、事務部長としての努めを果たしていきたいと考えています。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 看護部長 新田 伊津美



4月1日付で着任いたしました、看護部長の新田伊津美と申します。奈良での勤務は初めてになります。少しずつ奈良医療センターの周辺の桜が咲き始め、桜越しに見える薬師寺の景色は素晴らしく、古都奈良の歴史を感じながら毎日通勤しております。

看護部の理念である「患者さまに満足していただける看護」が実践できるよう、患者さまやご家族の方に寄り添い、安心・安全な看護を提供できるよう取り組んできたいと思っています。

また看護職員がやりがいを持ちながら働き続けられる職場環境を整えられるよう努力してまいりたいと思います。

どうぞ、よろしくお願いいたします。

# かわたペインクリニック

河田 圭司 院長

さまざまな痛みの治療に取り組む「かわたペインクリニック」では「身体的な苦痛を治療するペインクリニック」と「心の痛みを取り除く心療内科」と「理学療法士によるリハビリ」といった三つの診療を組み合わせ、総合的に痛みの治療を行っています。奈良市のペインクリニック専門診療所として、近隣地域のみならず多くの方々に頼って頂けるような診療所を目指しています。

当院では「日常の軽い痛み」から「特殊な痛み・難治性疼痛・慢性疼痛」に対し、神経ブロック療法を中心に薬物療法、理学療法、手技療法、心理療法などによって、痛みを診断・治療します。ペインクリニック・リハビリテーション科・心療内科を併設し、チーム医療が実施できる体制を整え、常に進化した痛みの治療を行なえるよう心がけています。痛みでお困りの方はご相談下さい。

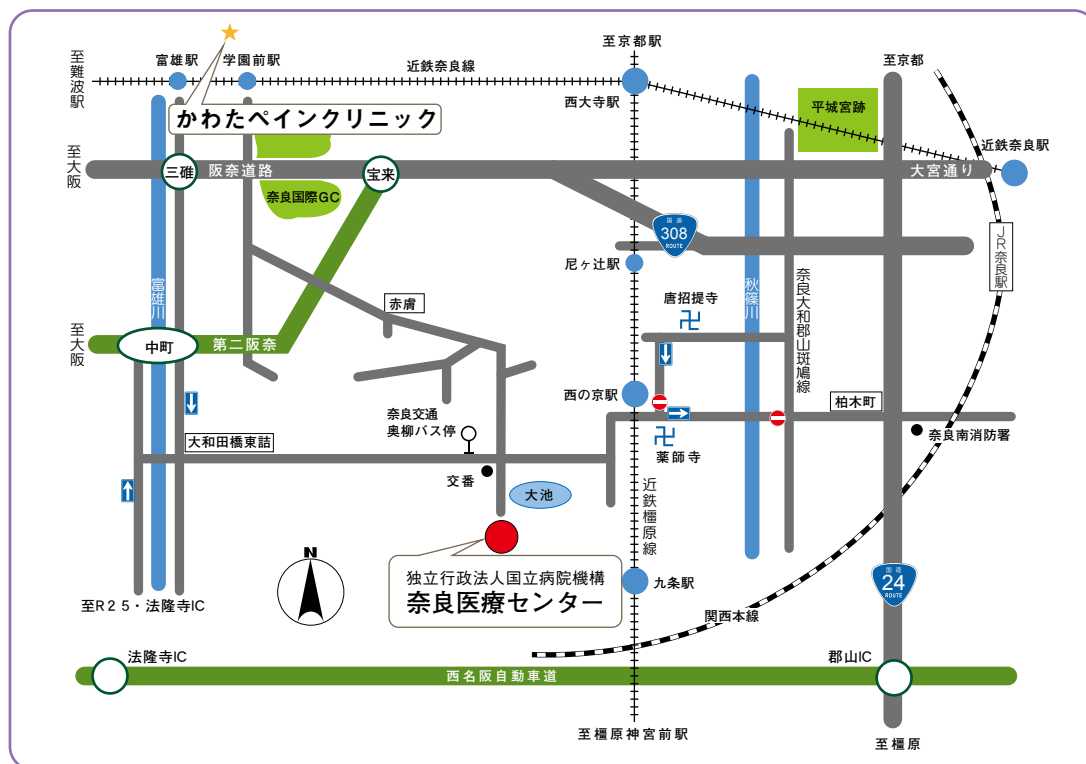


診療科目：麻酔科・リハビリテーション科・精神科・心療内科

診療時間：月・火・木～土 午前9時～12時

月・火・木・金 午後5時～7時30分

休診日：日曜・祝日、水曜、土曜午後、夏季・年末年始



独立行政法人 国立病院機構  
**奈良医療センター**  
地域医療連携室

〒630-8053  
奈良市七条2丁目789  
TEL.0742-45-4591 (代表)  
TEL.0742-45-1563 (直通)  
FAX.0742-45-4901 (直通)